

小学校学習指導要領解説Q&A 特別活動



教
学
一
如
女

教えることは 学ぶことである
学び続ける教職員に



鹿児島県総合教育センター

学習指導要領解説 Q & A について

平成29年3月に公示された学習指導要領について、「教科の『見方・考え方』を働かせる授業って?」「知識の理解の質を高めるとは?」といった先生方の疑問や知りたいことなどを、教科等別にQ & A形式でまとめました。

このQ & Aは、改訂された学習指導要領がこれまでとどんなところが変わったのかを中心にまとめています。



1 ダイジェスト

見開きで改訂のポイントをまとめてあるので、教科等の授業を行う上で大事なことは何かがすぐに分かります。

2 Q & A

コラム欄やワンポイントアドバイス、図、表などを取り入れ、分かりやすく読みやすい内容で解説しています。

Q5 内容Bの食生活「(2) 調理の基礎」で、ゆでる材料「じゃがいもなど」と指定されたのは、なぜですか。

A5 ゆでる材料として、水からゆでるものと沸騰してからゆでるものゆでることによってかさが異なるものは、多くの量を煮ることができ調理の特性を理解できるようにするためです。

ここには、「答え (Answer)」に係る補足説明や参考資料などが掲載しているので、「答え」の理由や根拠などが分かります。

3 活用法

日頃の授業や校内研修、市町村教育委員会や教育事務所主催の研修会、教科等別の教育研究会等では是非活用してください。必要な部分だけでも印刷・ダウンロードできます。

小学校特別活動 Q & A 目次

- Q1 特別活動の目標はどのように設定されていますか。 … 1
- Q2 特別活動における、「見方・考え方」について、どのように捉え
るとよいですか。 … 2
- Q3 特別活動で育成を目指す資質・能力とはどのように捉えると
よいですか。 … 3
- Q4 特別活動における「主体的・対話的で深い学び」の実現につ
いて、どのように捉えるとよいですか。 … 5
- Q5 特別活動と道德教育との関連について、どのような点に配慮
が必要ですか。 … 7
- Q6 特別活動と道德科との関連について、どのような点に配慮が
必要ですか。 … 9
- Q7 特別活動と総合的な学習の時間との関連について、どのよう
に捉えるとよいですか。 … 11
- Q8 学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」につ
いて、どのような点に配慮が必要ですか。 … 13
- Q9 学級活動「(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及
び健康安全」について、どのような点に配慮が必要ですか。 … 14
- Q10 学級活動「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」につい
て、どのような点に配慮が必要ですか。 … 15
- Q11 特別活動における「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実
現」について、三つの視点の関連は、どのように捉えるとよいで
すか。 … 17
- Q12 「ガイダンスとカウンセリングの趣旨を踏まえた指導を図る」こ
とについて、どのような点に配慮が必要ですか。 … 18

小学校特別活動改訂のポイント



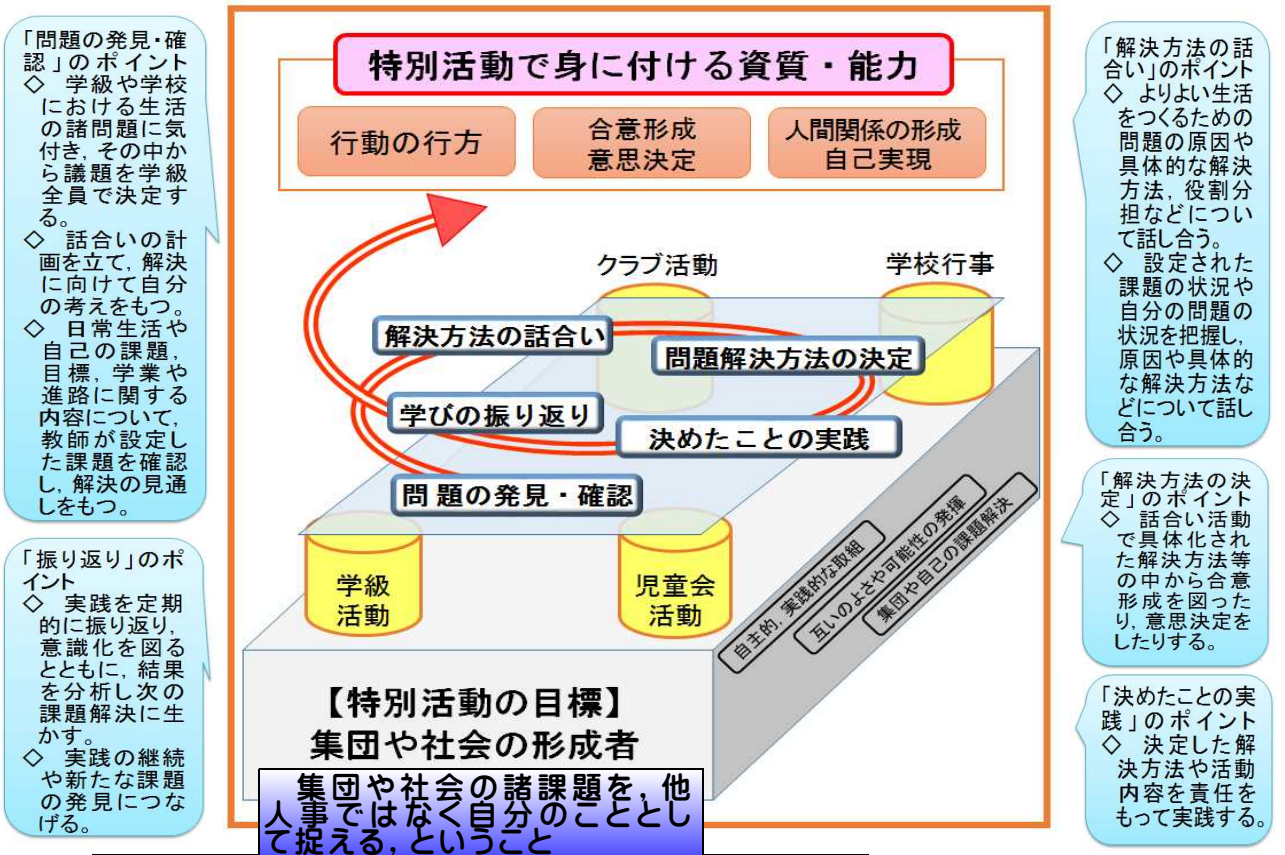
特別活動においては「問題解決の過程を学ぶ」ことを重視しています(下図)。つまり、特別活動の特質が、**課題を見いだし解決に向けて取り組むという実践的な学習**であるということです。

ポイント1 「人間関係の育成」、「自己実現」、「キャリア教育」の充実



- ① よりよい人間関係の育成
 - ◇ 学級経営の充実を図る
 - ◇ ガイダンスとカウンセリングの双方による児童の発達支援を行う
 - ◇ 学年の時期の特長を生かした指導の工夫に取り組む
- ② 現在及び将来における自己実現
 - ◇ 児童理解を深める
 - ◇ 学習指導と関連付けた生徒指導の充実を図る
- ③ キャリア教育の充実
 - ◇ 学ぶことと自己の将来とのつながりの見通しをもたせる
 - ◇ 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けさせていく

解決方法を合意形成するだけでなく、実践を通して振り返る活動を取り入れる。



「問題の発見・確認」のポイント

- ◇ 学級や学校生活の諸問題に気づき、その中から議題を学級全員で決定する。
- ◇ 話し合いの計画を立て、解決に向けて自分の考えをもつ。
- ◇ 日常生活や自己の課題、目標、学業や進路に関する内容について、教師が設定した課題を確認し、解決の見通しをもつ。

「振り返り」のポイント

- ◇ 実践を定期的に振り返り、意識化を図るとともに、結果を分析し次の課題解決に生かす。
- ◇ 実践の継続や新たな課題の発見につなげる。

「解決方法の話合い」のポイント

- ◇ よりよい生活をつくるための問題の原因や具体的な解決方法、役割分担などについて話し合う。
- ◇ 設定された課題の状況や自分の問題の状況を把握し、原因や具体的な解決方法などについて話し合う。

「解決方法の決定」のポイント

- ◇ 話し合い活動で具体化された解決方法等の中から合意形成を図ったり、意思決定をしたりする。

「決めたことの実践」のポイント

- ◇ 決定した解決方法や活動内容を責任をもって実践する。

「集団や社会の形成者としての「見方・考え方」とは？」

各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、**集団や社会における問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に関連付けること。**



「ガイダンス」と「カウンセリング」の違いは？」

ア ガイダンス
 児童の発達の特性や教育活動の特性を踏まえて、あらかじめ適切な時期や場面において、主に集団の場面で、必要とされる同質的な指導・援助を全員に行うことです。

イ カウンセリング
 個々の児童が抱える課題に対して、その課題を受け止めながら、主に個別指導により、個々の児童の必要度に応じて行うことです。



ポイント2 「人間関係形成」,「社会参画」,「自己実現」の視点からの授業設計

① 人間関係形成

集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへ形成しようとする視点

② 社会参画

よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとする視点

③ 自己実現

一般的には様々な意味で用いられるが、特別活動においては、集団の中で、現在および将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする視点



多様な他者と協働するために

- いじめの防止を含めた生徒指導のより一層の充実が求められます。
- 異年齢集団との交流の充実を図ることが重要です。
- 障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習に積極的に取り組むことが必要です。

三つの視点を考慮した授業を実現するために



「人間関係形成力」の育成へ向けて

集団において、課題の発見から実践、振り返りまで、特別活動の学習過程全体を通して、個人と個人あるいは個人と集団という関係性の中で、全ての児童が互いのよさを生かし合う関係を築けるようにすることが重要です。



「社会参画に必要な力」の育成へ向けて

学校は一番小さくて身近な「社会」です。全ての児童が「社会」と向き合ってよりよく改善していく力を身に付けるために、学校での自発的・自治的な活動が必要です。



「自己実現へ向けての態度」の育成へ向けて

児童一人一人が、自己の理解を深め自己のよさや可能性を生かす力や自己の在り方・生き方を考え設計する力などを身に付けるために、集団における共通して当面する現在及び将来に関わる課題を考察させる活動に積極的に取り組むことが重要です。



具現化するためのポイントとは？



集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせるために

児童が自分たちできまりをつくって守る活動を充実させることが大切です。例えば、友だちともっと関わることができるようにするためのルールの工夫について話し合い実践させることで、規範意識の確立や決まりの意義の理解につなげることができます。



様々な集団活動に自主的、実践的に取り組むために

地域の人々との交流や幼児・高齢者との交流、障害のある幼児児童生徒との交流、国際交流等様々な活動に全ての児童が積極的に取り組み、そのよさや大切さを実感することが大切です。



互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決するために

望ましい合意形成を図るためには、児童が批判的思考力をもち、友達の意見も受け入れつつ自分の考えも主張できることが大切です。そして、異なる意見や考えを基に、様々な解決方法を模索したり、折り合いを付けたりする実践力を身に付けることが重要です。



特別活動

(小学校)

Q 1 特別活動の目標はどのように設定されていますか。



A 1 特別活動の目標は、学級活動、児童会活動、クラブ活動及び学校行事の内容を総括する目標です。構成として、今回新たに(1)「知識及び理解」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」について示されました。



第1 目標

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。



Point!!

1 特別活動の位置付け

特別活動は、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせながら「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」ことを通して、資質・能力を育むことを目指す教育活動です。

2 特別活動の目標の捉え方

- 特別活動の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしつつ、それらを育むに当たり、児童がどのような学びの過程を経るのかということ、さらにはそうした学びの過程において、特別活動の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、教育活動の充実を図ることが目標の中に示されています。
- これまでの特別活動の基本的な性格を転換するものではなく、教育課程の内外を含めた学校の教育活動全体における特別活動の役割が、より一層明確に示されています。

3 特別活動の三つの視点

- 特別活動において育成することを目指す資質・能力や、それらを育成するための学習過程の在り方を整理するに当たっては、これまで目標において示してきた要素や特別活動の特質、教育課程全体において特別活動が果たすべき役割などを勘案して、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つを視点に整理されています。
- 「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点が、育成することを目指す資質・能力に関わるものであると同時に、それらを育成する学習の過程においても重要な意味をもつということは、特別活動の方法原理が「なすことにより学ぶ」ということにあります。

特別活動

(小学校)

Q 2 特別活動における、「見方・考え方」について、どのように捉える
とよいですか。



A 2 特別活動の特質に応じた見方・考え方として、「集団や社会の形成者としての見方・
考え方」を働かせることとしました。



学習指導要領解説特別活動編には、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせる
ことについて、次のように示されています。

学級や学校は、児童にとって最も身近な社会である。児童は学級や学校という社会での
生活の中で、様々な集団活動を通して、多様な人間関係の築き方や、集団の発展に寄与す
ることや、よりよい自分を追求することなどを学ぶことになる。児童は、学年・学校段階
が上がるにつれて人間関係や活動の範囲を広げ、特別活動で身に付けたこのような資質・
能力と、教科等で学んだことを、地域・社会などその後の様々な集団や人間関係の中で生
かしていく。こうした学習の過程においては、特別活動ならではの「見方・考え方」を働
かせることが重要である。今回の改訂で各教科等の目標に位置付けられた「見方・考え方」
は、各教科等の特質に応じた、各教科ならではの物事を捉える視点や考え方であり、各教
科等を学ぶ意義の中核をなすものである。特別活動の特質が、課題を見いだし解決に向け
て取り組むという実践的な学習であるということや、各教科等で学んだことを実際の生活
において総合的に活用して実践するというところにあることから考え、特別活動の特質に応
じた見方・考え方は「集団や社会の形成者としての見方・考え方」として示した。

「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせるということは、各教科等の見
方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関
係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付
けることである。こうした「見方・考え方」は特別活動の中で働くだけでなく、大人になって
生活していくに当たっても重要な働きをする。



Point!!

「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせる

- 「集団や社会の形成者としての見方・考え方」は特別活動と各教科等とが往還的な関係
にあることを踏まえて、各教科等における見方・考え方を総合的に働かせて、集団や社会
における問題を自分のこととして捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構
築や社会への参画及び自己の実現に関連付けることです。
- 解説文中にある「各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら」という表現は、「各
教科等の見方・考え方を実践的に働かせる」という意味で捉えることもできます。

特別活動

(小学校)

Q 3 特別活動で育成を目指す資質・能力とは、どのように捉えるとよいですか。



A 3 児童が互いのよさや可能性を発揮し、よりよく成長し合えるような集団活動を、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせながら展開することを通して、次のような資質・能力を育むことが大切です。

- (1) 「知識及び技能」(何を知っているか、何ができるか)
- (2) 「思考力, 判断力, 表現力等」(知っていること, できることをどう使うか)
- (3) 「学びに向かう力, 人間性等」(どのように社会, 世界と関わりより良い人生を送るか)



Point!!

1 「知識及び技能」について

多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動をする上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。

人間関係の視点	<ul style="list-style-type: none">○ 学級や学校における集団活動を前提とする特別活動は、よりよい人間関係の形成や合意形成、意思決定をどのように行っていくかということをお大切にしています。○ 集団活動を通して、話し合いの進め方やよりよい合意形成や意思決定の方法、チームワークの重要性、集団活動における役割分担の方法などについて理解できるようにすることが必要です。○ 方法論的な知識や技能だけではなく、よりよい人間関係とはどのようなものなのか、合意形成や意思決定とはどういうことなのかという本質的な理解も極めて重要です。
社会参画の視点	基本的な生活習慣、学校生活のきまり、社会生活におけるルールやマナー及びその意義について理解し、実践できるようにすることなど、集団や人間関係をよりよく構築していく中で大切にすべきことを理解し実践できるようにすることも必要です。
自己実現の視点	現在及び将来の自己の課題との関連における学習の意義を理解し、課題解決に向けて意思決定し、行動することの意義を理解することも必要です。特に、将来、自立した生活を営むことと現在の学習がどのように関わるかということを理解し、現在、自分でできることを意思決定し、実践していくことが重要です。

2 「思考力、判断力、表現力等」について

集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。

人間関係の視点	人間関係をよりよく形成していくために、様々な場面で、自分自身及び自分と違う考えや立場にある多様な他者と、互いを認め合いながら、助け合ったり協力し合ったり、進んでコミュニケーションを図ったり、協働したりしていくことが重要です。
社会参画の視点	集団をよりよいものにしたり、社会に主体的に参画したりしていくために、自分自身や他者のよさを生かしながら、集団や社会の問題について把握し、合意形成を図ってよりよい解決策を決め、それに取り組むことが大切です。
自己実現の視点	現在および将来に向けた自己実現のために、自己のよさや可能性を發揮し、置かれている状況を理解し、それを生かしつつ意思決定することや、情報を収集・整理し、興味・関心、個性の把握などにより、将来を見通して自己の生き方を選択・形成することが重要です。

3 「学びに向かう力、人間性等」について

自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

特別活動では、集団活動の意義や役割を理解し、多様な他者と関わる上で、様々な活動に自主的・実践的に関わろうとする態度を養う必要があります。そこで、次のような態度を養うことが考えられます。

人間関係の視点	多様な他者の価値観や個性を受け入れ、助け合ったり協力し合ったりして、よりよい人間関係を築こうとする態度
社会参画の視点	集団や社会の形成者として、多様な他者と協働して、集団や生活上の諸問題を解決し、よりよい生活をつくらうとする態度
自己実現の視点	日常の生活や自己の在り方を主体的に改善しようとしたり、将来を思い描き、自分にふさわしい生き方や職業を主体的に考え、選択しようとしたりする態度

特別活動

(小学校)

Q 4 特別活動における「主体的・対話的で深い学び」の実現について、どのように捉えるとよいですか。



A 4 特別活動における主体的・対話的で深い学びの実現とは、各活動・学校行事の学習過程において、授業や指導の工夫改善を行うことで、一連の学習過程の中での質の高い学びを実現することです。



Point!!



「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、まず、次のことを理解しておくことが重要です。

- 特別活動においては、児童同士の話し合い活動や、児童が自主的、実践的に活動することを特質としていること。
- 特別活動の各活動・学校行事の内容を深く理解し、それぞれを通して資質・能力を身に付け、小学校卒業後も能動的に学び続けるようにすること。
- 各教科等の見方・考え方を働かせ、各教科等の学習の過程を重視して充実を図ること。
- 「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」は、児童の学びをあえて三つの視点から捉えたものであり、個別に存在しているわけではなく、一体的なものであること。

1 「主体的な学び」について

「主体的な学び」の実現とは、学ぶことに興味・関心をもち、学校生活に起因する諸課題の改善・解消やキャリア形成の方向性と自己との関連を明確にしながらか、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の活動を振り返りながら改善・解消に励むなど、活動の意義を理解した取組のことです。

- 特別活動においては、学級や学校にける集団活動を通して、生活上の諸課題を見いだし解決できるようにすることが大切です。
- 学級が学校の実態、自己の現状に即して、自ら課題を見いだしたり、解決方法を決めて自主的に実践したり、その取組を振り返り、よい点や改善点に気付いたりできるような学習過程とすることが大切です。
- このような学習過程によって、集団や自己の新たな課題の発見や目標の設定が可能となり、生活を更によりよくしようという次の活動への動機付けとなるなど、児童の主体的な学びが可能となります。

2 「対話的な学び」について

「対話的な学び」の実現とは、児童相互の協働、教職員や地域の人々との対話、先哲の考え方や資料等を手掛かりに考えたり話し合ったりすることを通して、自己の考え方を協働的に広げ深めていくことです。

- 特別活動は多様な他者との様々な集団活動を行うことを基本とし、そこでの「話し合い」を全ての活動の中心に置いています。
- 学級活動や児童会活動、クラブ活動の自発的、自治的な活動においては、学級や学校における集団や自己の生活上の課題を見だし、解決するために合意形成を図ったり、意思決定したりする中で、話し合いを通して他者の様々な意見に触れ、自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりすることが重要です。
- 対話的な学びは、学級など同一集団の児童同士の話合いにとどまるものではありません。
- 異年齢の児童生徒や障害のある幼児・児童・生徒等、多様な他者と対話しながら協働することや地域の人との交流を通して自分の考えを広げたり、自分のよさやがんばりに気付き自己肯定感を高めたりすること、自然体験活動を通して自然と向き合い、学校生活では得られない体験から新たな気付きを得ること、キャリア形成に関する自分自身の意思決定の過程において、他者や教師との対話を通して自己の考えを発展させることなど、様々な関わりを通して感性を豊かにし、よりよい合意形成や意思決定ができるような資質・能力を育成することも、特別活動における対話的な学びとして重要となります。

3 「深い学び」について

「深い学び」の実現とは、学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、新たな課題を見だし解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることで、学んだことを深めることです。

- 特別活動における「深い学び」の実現には、特別活動が重視している「実践」を、単に行動の場面と狭く捉えるのではなく、課題の設定から振り返りまでの一連の活動を「実践」と捉えることが大切です。
- 特別活動において重視する「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点のいずれについても各教科等で育成する資質・能力と様々に関わっており、基本的な学習過程を繰り返す中で、各教科等の特質に応じた見方・考え方を総合的に働かせ、各教科等で学んだ知識や技能などを、集団及び自己の問題の解決のために活用していくことが大切です。
- それぞれの学習過程において、どのような資質・能力を育もうとするのかを明確にした上で、意図的・計画的に指導に当たることが「深い学び」の実現につながります。

特別活動

(小学校)

Q 5 特別活動と道德教育との関連について、どのような点に配慮が必要ですか。



A 5 特別活動における道德教育の指導においては、学習活動や学習態度への配慮、教師の態度や行動による感化とともに、特別活動の目標と道德教育との関連を明確に意識しながら、適切な指導を行う必要があります。



Point!!

1 特別活動と道德教育の関連について

特別活動における道德教育の指導においては、学習活動や学習態度への配慮、教師の態度や行動による感化とともに、次に述べるような特別活動の目標と道德教育との関連を明確に意識しながら、適切な指導を行う必要があります。

- 特別活動における学級や学校生活における集団活動や体験的な活動は、日常生活における道徳的な実践の指導を行う重要な機会と場であり、道德教育において果たす役割は大きいこと。
- 特別活動の目標には、「集団活動に自主的、実践的に取り組み」「互いのよさや可能性を発揮」「集団や自己の生活上の課題を解決」など、道德教育でもねらいとする内容が含まれていること。
- 育成を目指す資質・能力には「多様な他者との協働」「人間関係」「自己の生き方」「自己実現」など、道德教育がねらいとする内容と共通している面が多く含まれており、道德教育において果たすべき役割は極めて大きいこと。
- 具体的には、多様な他者の意見を尊重しようとする態度、自己の役割や責任を果たして生活しようとする態度、よりよい人間関係を形成しようとする態度、みんなのために進んで働こうとする態度、自分たちできまりや約束をつくって守ろうとする態度、目標をもって諸問題を解決しようとする態度、自己のよさや可能性を大切に集団活動を行おうとする態度などは、集団活動を通して身に付けたい道徳性であること。
- 学級活動については、道德教育の各学年段階における配慮事項等を踏まえて、学級活動における各学年段階の指導における配慮事項が次のように示されていること。

【学級活動における学年段階の配慮事項】

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
話し合いの進め方に沿って、自分の意見を発表したり、他者の意見をよく聞いたりして、合意形成して実践することのよさを理解すること。基本的な生活習慣や、約束やきまりを守ることの大切さを理解して行動し、生活をよくするための目標を決めて実行すること。	理由を明確にして考えを伝えたり、自分と異なる意見も受け入れたりしながら、集団としての目標や活動内容について合意形成を図り、実践すること。自分のよさや役割を自覚し、よく考えて行動するなど節度ある生活を送ること。	相手の思いを受け止めて聞いたり、相手の立場や考え方を理解したりして、多様な意見のよさを積極的に生かして合意形成を図り、実践すること。高い目標をもって粘り強く努力し、自他のよさを伸ばし合うようにすること。

2 特別活動の各活動・学校行事と道德教育の関連について

<p>学級活動</p>	<p>(1) 学級活動の内容「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学級や学校の生活上の諸課題を見だし、これを自主的に取り上げ、協力して解決していく自発的、自治的な活動です。 ○ <u>児童による自発的、自治的な活動によって望ましい人間関係の形成やよりよい生活づくりに参画する態度などに関わる道德性を身に付けることができます。</u> <p>(2) 学級活動の内容「(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」</p> <p>基本的な生活習慣の形成やよりよい人間関係の形成、心身ともに健康で安全な生活態度の形成、食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成を示しています。</p> <p>(3) 学級活動の内容「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」</p> <p>現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成、社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解、主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用を示しています。</p> <p>これらのことについて、<u>自らの生活を振り返り、自己の目標を定め、粘り強く取り組み、よりよい生活態度を身に付けようとする</u>ことは、<u>道德性を養うことと密接に関わる</u>ものです。</p>
<p>児童会活動</p>	<p>児童会活動においては、異年齢の児童が学校におけるよいよい生活を築くために、諸問題を見だし、これを自主的に取り上げ、協力して解決していく自発的、自治的な活動を通して、<u>異年齢によるよりよい人間関係の形成やよりよい学校生活づくりに参画する態度などに関わる道德性を養う</u>ことができます。</p>
<p>クラブ活動</p>	<p>クラブ活動においては、<u>異年齢によるよりよい人間関係の形成や個性の伸長、よりよいクラブ活動づくりに参画する態度などに関わる道德性を養う</u>ことができます。</p>
<p>学校行事</p>	<p>自然の中での集団宿泊活動やボランティア精神を養う活動、幼児、高齢者や障害のある人々などとの触れ合いや文化や芸術に親しむ体験を通して、<u>よりよい人間関係の形成、自律的態度、心身の健康、協力、責任、公德心、勤労、社会奉仕などに関わる道德性を養う</u>ことができます。</p>

特別活動

(小学校)

Q 6 特別活動と道徳科との関連について、どのような点に配慮が必要ですか。



A 6 特別活動と道徳科の授業は、両方の特質を生かした上で関連付けることで、学習効果を高めることができますが、特質を踏まえない安易な関連付けは、逆に双方の学習効果を低くすることになりかねません。両者の特質をしっかりと理解した上で、それぞれの特質を生かして関連付けることが必要です。



Point!!

1 特別活動と道徳科の関連について

- 特別活動は、道徳科の授業で学んだ道徳的価値の理解及びそれに基づいた自己の生き方についての考えを、よりよい学級や学校の生活と人間関係を築こうとする実践的な活動や、キャリア形成と自己実現に向けた活動の中で実際に言動に表すとともに、集団の一員としてのよりよい生き方についての考えを深めたり、身に付けたりする場や機会でもあります。
- 児童が、特別活動における様々な活動において経験した道徳的行為や道徳的な実践について、道徳科の授業でそれらについて取り上げ、学級全体でその道徳的な意義について考えられるようにし、道徳的価値として自覚できるようにしていくこともできます。
- 道徳科の授業での指導が特別活動における具体的な活動場面の中に生かされ、具体的な実践や体験などが行われることによって、道徳的な実践との有機的な関連を図る指導が効果的に行われることにもなります。
- 道徳科の目標にある「自己の生き方についての考えを深める学習」との関連化を図り、特別活動の実践的な取組を通して、「自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度」を養う必要があります。それぞれの指導方法などの違いを十分に理解した上で、日常生活における道徳的な実践の指導の充実を図る必要があります。
- 特別活動における「自己の生き方についての考えを深める」とは、実際に児童が実践的な活動や体験的な活動を通し、現在及び将来にわたって希望や目標をもって生きることや、多様な他者と共生しながら生きていくことなどについての考えを深め、集団の一員としての望ましい認識をもてるようにすることです。
- 教材を活用して道徳的諸価値の理解及びそれに基づいた自己の生き方についての考えを深める道徳科の授業とは区別して指導する必要があります。

2 特別活動の各活動と道徳科の関連について

学級活動	<p>学級活動において「よりよい人間関係」について話し合う場合などには、学級における人間関係に係る現実の問題をどのように解決するかを話し合い、集団として取り組むべき解決策を合意形成したり、自分が行うことを意思決定したりすることが目的です。道徳科においては、「よりよい人間関係」について話し合うということは、なぜ仲良くすることが大切なのか、仲良くすることが大事だと分かっているもできなかったりするのなぜなのか、といったことを問いながら道徳的価値の理解や自分自身の生き方についての考えを深めていくことが目的です。<u>前者は道徳的な実践そのものを行うこと、後者は道徳的な実践を行うために必要な道徳性を養うことを目的</u>としています。</p>
遠足・集団宿泊学習	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集団宿泊活動では、例えば、実際に寝食を共にする体験やよりよい生活を築くための話し合い活動を繰り返し行った際に、<u>自己の役割や責任を果たして生活することや他者と共生しながら生きていくことなどについての考えを深めること</u>ができます。 ○ 活動を通して、「豊かに他者と関わり合って生活するためには、意見や考えの異なる人とでも、協力することが大切である」とか、「集団としての合意形成を行うためには、多面的・多角的な視点に立って自分と異なる意見や立場を大切にすることが必要である」などの<u>望ましい認識をもてるようにするとともに、このような認識に基づいて実際に行動や態度に表すことができるよう指導すること</u>などが考えられます。
体験的な活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別活動において<u>道徳性の育成に関わる実践的な活動や体験的な活動を積極的に取り入れ</u>、活動そのものを充実させることによって道徳性の育成を図ろうとするものです。 ○ 体験的な活動における<u>道徳的価値の大切さを自覚し、自己の生き方についての考えを深めるという視点から実践や体験的な活動を考えることができるよう</u>に道徳科の授業を工夫し、連携を図っていく必要があります。

特別活動

(小学校)

Q 7 特別活動と総合的な学習の時間との関連について、どのように捉えるとよいですか。



A 7 それぞれの目標や内容に沿った指導を行うことを前提とした上で、両者の連携を図った指導を行うことも効果的です。例えば、総合的な学習の時間で学んだ環境に関する内容が、特別活動における実際の学級や学校の生活に生かされ、そこで体得したことが次の探究的な学習の問いにつながるなどの両者の特質を生かし合った関連が考えられます。



Point!!

1 特別活動と総合的な学習の時間の目標や内容の違いについて

特別活動と総合的な学習の時間との関連を考えるに当たっては、まず、それぞれの目標や内容を正しく理解しておく必要があります。

項目	特別活動	総合的な学習の時間
基本原理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科等で身に付けた資質・能力を総合的に活用しながら、児童が自ら現実の課題の解決に取り組むことを基本原理としている。 ○ 体験的な学習を重視すること、協働的な学習を重視する。 ○ 自己の生き方についての考えを深める。 	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「<u>実践</u>」に本質があります。 話し合って決めたことを「実践」したり、学んだことを学校という一つの社会の中で、あるいは家庭を含めた日常の生活の中で、現実の問題の解決に生かしたりするものです。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「<u>探究</u>」に本質があります。 物事の本質を探って見極めようとしていくことです。
解決	<p><u>実生活における現実の問題そのものを改善すること</u>です。</p>	<p><u>一つの疑問が解決されることにより、さらに新たな問いが生まれ、物事の本質に向けて問い続けていくもの</u>です。</p>
留意点	<p>総合的な学習の時間において計画した学習活動が、学習指導要領に示した特別活動の目標や内容と同等の効果が得られる場合も考えられます。このため、学習指導要領第1章総則第2の3(2)のエにおいて、このような場合について、<u>総合的な学習の時間の実施によって、特別活動の学校行事の実施に替えることができることとする規定を設けています。</u></p>	

2 特別活動と総合的な学習の時間の関連について

総合的な学習の時間において、問題の解決や探究活動といった総合的な学習の時間の趣旨を踏まえ、例えば、自然体験活動やボランティア活動を行う場合において、これらの活動は集団活動の形態をとる場合が多く、よりよい人間関係の形成や公共の精神の育成など、**特別活動の趣旨も踏まえた活動とすることが**考えられます。

具体例として、次のような場合が挙げられます。

- 総合的な学習の時間に行われる自然体験活動が、環境や自然を課題とした問題の解決や探究活動として行われると同時に、「自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにする」と同様の成果も期待できると考えられるような場合
- 総合的な学習の時間に行われるボランティア活動が、社会との関わりを考える学習活動として行われると同時に、「勤労の尊さや生産の喜びを体得するとともに、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるようにする」勤労生産・奉仕的行事と、それぞれ同様の成果も期待できると考えられる場合

その際、学校行事は、目標と五つの種類の学校行事を教育課程の基準として示している集団活動であること、学年や学校を単位とする、学校生活に秩序と変化を与えることを目指す教育活動であること、学校集団や学校生活への所属感を深め、よりよい人間関係の形成や公共の精神などを養う教育活動であることを正しく理解しておく必要があります。

【参考】各学校行事とねらい

学 校 行 事	ね ら い
儀式的行事	学校生活に有意義な変化や折り目を付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるようにすること。
文化的行事	平素の学習活動の成果を発表し、自己の向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりするようにすること。
健康安全・体育的行事	心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するようにすること。
遠足・集団宿泊的行事	自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること。
勤労生産・奉仕的行事	勤労の尊さや生産の喜びを体得するとともに、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるようにすること。

特別活動

(小学校)

Q 8 学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」について、どのような点に配慮が必要ですか。



A 8 教師の適切な指導の下での、学級としての議題選定や話し合い、合意形成とそれに基づく実践を重視します。これらは、日々の学級経営の充実と深く関わる活動です。



Point!!

項目	配慮すべき内容等
育成すべき 資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにします。 ○ 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにします。 ○ 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養います。
課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人が心掛ければ解決するような課題（(例)話を静かに聞くなど）ではなく、学級や学校生活の充実と向上を図るために、学級の児童全員が協働して取り組み解決していくものでなければなりません。 ○ 児童の発達の段階に応じて、自分たちで解決することができ、しかも、教育的に望ましいと認められる課題であることも大切です。
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が自主的、実践的にこうした課題に取り組んでいく中で、<u>教師は共に考え、解決していこうとする姿勢が求められます。</u> ○ 指導に当たっては、<u>一人一人の児童について、集団の中での成長を見つめ、児童の実態を的確に把握して指導することが大切</u>です。 ○ 個々の児童の思いや願いを理解し、一人一人が当該学級集団に所属し、集団の一員として認められているという満足感や充実感、連帯感などをもち、互いに協力する中で<u>自己有用感を高めることができるように配慮することが求められます。</u>

特別活動

(小学校)

Q 9 学級活動「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」について、どのような点に配慮が必要ですか。



A 9 この内容は、日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康や安全に関するもので、児童に共通した問題ですが、一人一人の理解や自覚を深め、意思決定とそれに基づく実践を行うものであり、個々に応じて行われるものです。したがって、学級活動(1)との違いに留意し、関係する教科等における学習や、個別の生徒指導との関連を図りつつ、教師が意図的、計画的に指導する必要があります。



Point!!

児童一人一人が、自らの学習や生活の目標を決めて、その実現に向けて取り組めるものでなければなりません。そして、自分から進んで学び、自分の生活上の課題を見だし、よりよく解決するための活動となります。

項目	配慮すべき内容等
育成すべき 資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全といった、自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解するとともに、そのために必要な知識や行動の仕方を身に付けるようにします。 ○ 自己の生活上の課題に気づき、多様な意見を基に、自ら解決方法を意思決定することができるようにします。 ○ 自己の生活をよりよくするために、他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、他者を尊重してよりよい人間関係を形成しようとしたりする態度を養います。
活動の主な 内容	<p>学級活動の目標に「話し合いを生かして」とあるように、児童に共通する問題を取り上げ、話し合いを通してその原因や対処の方法などについて考え、自己の問題の解決方法などについて意思決定し、強い意志をもって粘り強く実行していく活動が中心となります。</p>
指導上の留 意点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意思決定したことをその後の生活の改善に生かすことができるように励ましたり、助言したりすることが大切です。その際、児童にとって身近な問題を取り入れ、児童が自分自身の問題として受け止めていくことができるよう、<u>指導方法や提示する資料の工夫を行うことが重要</u>です。 ○ 目標に向けて努力する過程で、<u>できたことやできなかったことを振り返り、次の取組への意欲につなげていく指導も大切</u>です。 ○ 日常のあらゆる教育活動を通して進められる<u>生徒指導との関連を図り</u>、学級活動の授業として取り上げる内容を発達の段階に即して重点化することが必要です。 ○ 学級担任の教師による指導が原則ですが、活動の内容によっては、<u>他の教師等の専門性を生かすと効果的である場合</u>も予想されます。例えば、健康や安全、給食の問題、読書などを取り上げる場合、養護教諭、栄養教諭、学校栄養職員、司書教諭などの協力を得て指導に当たるようにすることは望ましい配慮です。

特別活動

(小学校)

Q10 学級活動「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」について、どのような点に配慮が必要ですか。



A10 ここで扱う活動内容は、児童の現在及び将来の生き方を考える基盤になるものであり、学校の教育活動全体を通して行うキャリア教育や個に応じた指導、支援、相談等との関連を図ることが大切です。



Point!!

項目	配慮すべき内容等
育成すべき 資質・能力	<p>活動の過程を記述し、振り返ることができる教材等の作成とその活用を通して、児童が自己の成長や変容を把握し、主体的な学びの実現や今後の生活の改善に生かしたり、将来の生き方を考えたりする活動が求められます。ここでは、例えば次のような資質・能力を育成することが考えられます。</p> <p>【知識及び技能】 働くことや学ぶことの意義を理解するとともに、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要なことを理解し、行動の在り方を身に付けるようにする。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 自己の生活や学習の課題について考え、自己への理解を深め、よりよく生きるための課題を見だし、解決のために話し合って意思決定し、自己のよさを生かしたり、他者と協力したりして、主体的に活動することができるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 現在及び将来にわたってよりよく生きるために、自分に合った目標を立て、自己のよさを生かし、他者と協働して目標の達成を目指しながら主体的に行動しようとする態度を養う。</p>
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャリア教育の要としての役割を担うこととは、キャリア教育が学校教育全体を通して行うものであるという前提のもと、これからの学びや自己の生き方を見通しこれまでの活動を振り返るなど、教育活動全体の取組を自己の将来や社会づくりにつなげていくための役割を果たすということです。 ○ 学級活動(3)の内容が、キャリア教育の視点からの小・中・高等学校のつながりが明確になるよう整理することによって設けられたということです。 ○ 扱う内容については、将来に向けた自己実現に関わるものであり、一人一人の主体的な意思決定を大切にする活動です。中学校、高等学校へのつながりを考慮しながらも、小学校段階として適切なものが内容として設定されています。 ○ キャリア教育は、教育活動全体の中で基礎的・汎用的能力を育むものであることから、夢をもつことや職業調べなどの固定的な活動だけにならないようにすることが大切です。

ここで扱う内容は、個々の児童の将来に向けた自己実現に関わるものであり、一人一人の主眼的な意思決定に基づく実践にまでつなげることをねらいとしています。今回の改訂においては、特別活動を要として、学校の教育活動全体を通してキャリア教育を適切に行うことが示されています。

1 内容について

これまで小学校では、学級活動については、いずれの学年においても取り扱う内容を共通事項として(1)、(2)の二つに分類していましたが、今回(3)を設け、キャリア教育の視点からの小・中・高等学校のつながりが明確になるよう三つに分類・整理し直しました。

新学習指導要領（H29年改訂）	前学習指導要領（H20年改訂）
(1) 学級や学校における生活づくりへの参画	(1) 学級生活や学校の生活づくり
(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全	(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全
(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現	

「(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」と扱う内容は異なりますが、(2)と同様に、児童に共通した問題を取り上げ、教師が意図的、計画的に指導し、話し合い等を通して一人一人の考えを深め、実践につなげることを重視します。

2 キャリア形成について

「キャリア形成」とは、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくための働きかけ、その連なりや積み重ねを意味します。これからの学びや生き方を見通し、これまでの活動を振り返るなどして自らのキャリア形成を図ることは、これからの社会を生き抜いていく上で小学校においても重要な課題となります。

- 夢や希望は、明日を生きていく原動力となるものです。児童が現在や将来に夢や希望を抱き、その実現を目指して物事に取り組むことは、「今の自分」に価値や意味を見いだすことにつながります。
- 児童が、将来直面する様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会的・職業的に自立していくためには、児童一人一人が学ぶこと、働くこと、そして生きることについて考え、それらの結び付きを理解していくことで、多様な他者と協働しながら、自分なりの人生をつくっていく力を育むことが必要です。

特別活動

(小学校)

Q11 特別活動における、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」について、三つの視点の関連は、どのように捉えるとよいですか。



A11 三つの視点はそれぞれ重要ですが、相互に関わり合っていて、明確に区別されるものでないことに留意する必要があります。



Point!!

人間関係形成	<p>「人間関係形成」は、<u>集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成するという視点</u>です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人間関係形成に必要な資質・能力は、集団の中において、課題の発見から実践、振り返りなど特別活動の学習過程全体を通して、個人と個人あるいは個人と集団という関係性の中で育まれると考えられます。 ○ 年齢や性別といった属性、考え方や関心、意見の違い等を理解した上で認め合い、互いのよさを生かすような関係をつくるのが大切です。 ○ 「<u>人間関係形成</u>」と「<u>人間関係をよりよく形成すること</u>」は同じ視点として整理しています。
社会参画	<p>「社会参画」はよりよい学級・学校生活づくりなど、<u>集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとするという視点</u>です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会参画のために必要な資質・能力は、集団の中において、自発的、自治的な活動を通して、個人が集団へ関与する中で育まれます。 ○ 学校は一つの小さな社会であると同時に、様々な集団から構成されるということです。 ○ 学校内の様々な集団における活動に関わることが、地域や社会に対する参画、持続可能な社会の担い手となっていくことにもつながっていきます。 ○ 社会は、様々な集団で構成されていると捉えられることから、<u>学級や学校の集団をよりよくしようとするために参画することと、社会をよりよくしようとするために参画することは、「社会参画」という意味で同じ視点として整理</u>しています。
自己実現	<p>「自己実現」は、一般的には様々な意味で用いられますが、<u>特別活動においては、集団の中で現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする視点</u>です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自己実現のために必要な資質・能力は、自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力、自己の在り方や生き方を考え設計する力など、<u>集団の中において個人が共通して当面する現在及び将来に関わる課題を考察する中で育まれます。</u>

特別活動

(小学校)

Q12 「ガイダンスとカウンセリングの趣旨を踏まえた指導を図る」ことについて、どのような点に配慮が必要ですか。



A12 ガイダンスとカウンセリングは、児童一人一人の学校生活への適応や人間関係の形成、進路の選択などを実現するために行われる教育活動です。単にガイダンスやカウンセリングに多くの時間を費やせばよいというものではなく、児童の行動や意識の変容を促し、一人一人の発達を促す働きかけとしての両輪として捉えることが大切です。



Point!!

ガイダンス・・・主に集団の場面で必要な指導や援助を行う。
 カウンセリング（教育相談を含む）・・・個々の児童の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行う。

項目	趣旨を踏まえた指導を図るための配慮等
ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童のよりよい生活や集団づくりに関わる、主に集団の場面で行われる案内や説明であり、ガイダンスの機能とは、そのような案内や説明等を基に、児童一人一人の可能性を最大限に発揮できるような働きかけ、すなわち、ガイダンスの目的を達成するための指導・援助を意味するものです。 ○ 具体的には、児童の学級・学校生活への適応やよりよい人間関係の形成などに関して、教師が児童や学級の実態に応じて、計画的、組織的に行う情報提供や案内、説明及びそれらに基づいて行われる学習や活動などを通して、課題等の解決・解消を図ることができるようになることです。 ○ <u>ガイダンスの機能を充実するための工夫とは、日々の指導について、ねらいをもち、その実現のための指導・援助をより適時、適切な場や機会を設け、よりよい内容・方法で実施するよう改善を図ること</u>であり、また、そのための指導計画を立て、<u>教師の共通理解と協力により、その効果を高めるようにする</u>ということです。
カウンセリング	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校におけるカウンセリングは、児童一人一人の生活や人間関係などに関する悩みや迷いなどを受け止め、自己の可能性や適性についての自覚を深めさせたり、適切な情報を提供したりしながら、児童が自らの意志と責任で選択、決定することができるようにするための助言等を、個別に行う教育活動です。 ○ 児童一人一人の発達を支援するためには、個別の指導・援助を適切に行うことが大切であり、児童に関する幅広い情報の収集と多面的な理解、教師と児童の信頼関係構築に極めて有効です。 ○ 特別活動におけるカウンセリングとは専門家に委ねることや面接や面談のことではなく、<u>教師が日頃行う意識的な対話や言葉掛けのこと</u>です。

ガイダンスとカウンセリングの関係

ガイダンスとカウンセリングは、課題解決のための指導・援助の両輪です。教師には、特別活動のいずれの内容においても双方の趣旨を踏まえて指導を行うことが求められます。関わり方の違いはあっても、いずれも児童の発達の支援のためのものであるから、双方の趣旨を踏まえて、相互に関連して計画的に行うことに意義があると言えます。